



# Pure 純 No.214 Pacific パ Mar.2021

純パの会会報『純パ』第214号

2021年3月20日発行／発行：純パの会

## 千住発、昭和プロ野球の『兵どもが夢の跡』を とことん探訪！

『第13回パ・リーグ歴史探訪

～後楽園球場跡地&東京スタジアム跡地巡り～』のご報告

岩河 正剛(東京都福生市)

※写真撮影：岩河正剛・影山一義・田中尚  
塚原隆・蜷川明男

### はじめに

2015年開始後、今年で7年目を迎えた純パの会のレギュラーイベント「パ・リーグ歴史探訪」。その第13回目を2月13日(土)に開催しました。今回探訪する場所は、後楽園球場と東京スタジアムの跡地とそのゆかりの場所。首都東京に存在した「昭和時代のみ存在した、プロ野球の試合開催を目的に作られた」代表的な二つの野球場跡地をフォーカスしました。

昭和11(1936)年から始まった現在のNPBに通ずるプロ野球(注：当時は職業野球)のリーグ戦。しかし草創期の東京には都心にも、そしてキャパ的にもプロ野球開催にふさわしい野球場がありませんでした。そこで建設されたのが後楽園球場です。立地、キャパとも十分な条件を備えたこの野球場は、開場とともに様々な試合が行われ、また戦後2リーグ分裂後は数多くのプロ野球チームの本拠地として使用されてきました。そんなプロ野球が活況を呈していた昭和30年代には、大毎オリオンズの永田雅一オーナーが私財を投じて荒川区南千住の地に巨大な東京スタジアムを建設。後楽園球場と東京スタジアム、ともに当時としては珍しい二層式内野スタンドの威容が独特の雰囲気醸し出し、多くの野球ファンを魅了してきました。

●東京スタジアム



●後楽園球場



※球場写真：『懐かしの球場～関東編～』(産経新聞社刊)より